

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【ハートフルタイム（人権集会）】	やまべっこ委員会（運営委員会）を中心に、山部小学校いじめ防止基本方針を確認し「いじめは絶対にダメ」という考えをもとに、ハートフルタイムを実施した。1～3年生は「みにくいあひるの子」、4～6年生は「スマホリアルストーリー」の動画を視聴し、「何気ない一言」によって相手を傷つけたり、自分の意図とは違う方向に勘違いされたりすることについて理解を深めた。そこから学級毎にいじめ防止について話し合い、標語を募集し掲示した。他学級の標語に向けて「自分もそう思う」「5・6年生みたいに、みんなが笑顔でいられるようにがんばりたい」等のメッセージを募り、学校全体でいじめ防止への思いを共有した。 成果 ハートフルタイム後の話し合いでは「自分も傷つける一言を言っちゃってるかもしれない」「SNSは便利だけど、勘違いされたら悲しい」等の意見が出され、児童自身が生活を見直すきっかけとなった。各学級で考えた標語には「声をかけあう」という言葉が多く使われ、自分の思いや考えをわかり合えるまで話すよう努力したいと考えることができた。 課題 SNSでの発言でトラブルになるケースは増加傾向にある。発信者は相手が自分の言葉をどう捉えるのか、面と向かって話すときよりも慎重になれるよう引き続き指導していく。
2 実践2 【職員研修（性マイノリティについて）】	性的マイノリティ理解促進プログラム及び人権問題啓発映画「ホーム」の事例をもとに、性的マイノリティや差別に対する研修を行った。スライドや資料をもとに、社会にあるLGBTQ+（多様な性）への基本的な理解、不登校や発達障害の児童生徒よりも性的マイノリティの児童生徒の割合が高いこと等、基礎知識を得られる時間を設けた。さらに、性的マイノリティの児童が「どんなことに困っているか？」「カミングアウトされたときはどう対応するか？」「学校全体でできる配慮は？」という視点で意見交換を行い、人権教育への一人一人の認識を高めたいと考えた。 成果 セクシュアリティの4要素から多様な性が考えられることに驚く職員が多くいた。また、性的マイノリティの児童が抱える日々の「もやもや」を相談できる大人でいられるよう、普段から信頼関係を築いていくことが大切であるという共通理解ができた。 課題 無意識に、男女分けしてしまう言動が普段からあると自覚できた職員がほとんどであった。「男らしさ、女らしさ」ではなく「自分らしさを大切にできる人」を育てられるよう、普段の支援指導にあたる必要がある。そのためにもその都度職員間で情報共有できる体制を整えていく。